

輸送業界

2022年の展望

2021年のトラック輸送業界は、前年と同様、新型コロナウイルスに大きく揺さぶられる1年となりました。長引く社会・経済活動の自粛で、貨物輸送の需要は企業向けを中心に落ち込み、運賃水準も低位で推移しました。2022年は、新型コロナの収束を前提に、回復基調に転じることが予想されていますが、その一方でドライバー人材の確保など解決すべき課題は山積しています。

国内宅配取扱個数が急増

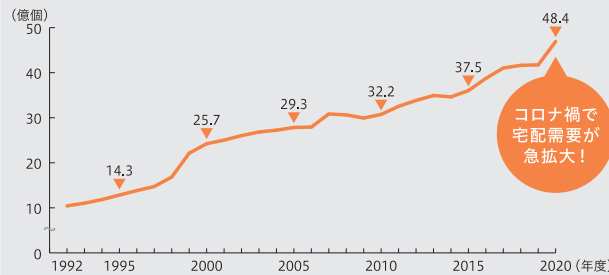
2021年、新型コロナの影響で輸送需要の低迷が続く中、トラック輸送事業者にとって大きな痛手となったのは燃料費の高騰でした。同年春以降、燃料価格(店頭小売価格)は右肩上がりを受け、同年10月には軽油が1リットル当たり140円台、レギュラーガソリンが同160円台に突入するなど、7年ぶりの高値圏まで上昇しました。

「新型コロナで仕事そのものが少なくなっているところに、想定外

の燃料費アップに直面した。まさにダブルパンチだった」(中堅トラック輸送会社の経営者)といった声も聞かれました。

もっとも、暗い話題ばかりではありませんでした。例えば宅配便市場は「巣ごもり消費」拡大に伴う、ネット通販での旺盛な物流需要を背景に、高い成長率を維持しました。20年度の国内宅配便取扱個数は約48億個(国土交通省調査)でしたが、21年度は50億個の大台を突破することが確実視されています。

宅配便取扱個数の推移



出典:国土交通省「令和2年度宅配便等取扱実績関係資料」より作成



ドライバー人材不足への対応が“待ったなし”の課題に

昨年10月以降、ワクチン接種の浸透などで国内における新型コロナの新規感染者や重症者は大幅に減少しています。このまま新型コロナが収束に向かえば、社会・経済活動が正常化し、国内景気はもちろんのこと、トラック輸送の需要も急速に回復していくと見られています。

それに伴い、再び顕在化してくるのがドライバー人材確保の問題です。トラックドライバーは現時点で約10万人が不足し、「2028年にはその数が28万人に達する」(鉄道貨物協会)とされています。コロナ後の輸送需要の拡大、さらに「働き方改革」の一環として24年には「ドライバーの時間外労働時間の上限規制(年960時間以内)」の適用が控えていることもあり、人材不足の深刻化が懸念されます。22年、トラック輸送業界はこの問題に対して、待ったなしの対応を迫られることになりそうです。

◆ドライバー人材不足の解決に向けて



1. 「トラックの自動運転技術」の進展

複数のトラックを自動操縦し、隊列を組んで走行することで、ドライバーの必要数を減らそうというもの。現在、官民が一体となって実証実験を展開し、早期の実用化を目指している。



2. 「25メートルダブル連結トラック」の普及

一度に大型トラック約2台分の荷物を運べる、「25メートルダブル連結トラック」の走行が可能な路線(区間)は年々拡大しており、22年には導入がより一層加速すると見られる。

女性ドライバーが活躍できる職場環境づくりを

女性ドライバーの比率を高めていくことも大きな課題となります。ここ数年、政府は「トラガール促進プロジェクト」などを通じて、女性ドライバーの確保に努めてきましたが、大きな成果を上げるまでには至っていません。国内のトラックドライバー数は男性が約84万人であるのに対し、女性は約3万人(約3%)にとどまっているというのが実情です(総務省「労働力調査」2019年)。

その理由として、あるトレーラーの女性ドライバーは「体力が必要なキツイ仕事の割に、建設業などに比べ給与水準が低い。また、物流施設に女性専用の化粧室が完備されていなかったり、ユニフォーム(作業着)が男性目線で作られていたり、女性が働きにくい環境にあるからではないか」と指摘します。

◆環境改善の事例



1. 力仕事からの解放

ロールボックスパレットの活用推進や、手積み手降ろしが必要となる業務を担当させないよう配慮する。

2. 快適に過ごせる職場インフラの整備

女性専用のトイレはもちろん、更衣室や鏡が置いてあるスペースなどを確保。また分煙にも配慮する。



22年はコロナ・ショックからのV字回復“元年”となります。活気を取り戻した経済活動を支える屋台骨として、トラック輸送業界には安定した輸送力の供給が求められます。景気的好転に水を差さないようにするためにも、ドライバー人材不足問題は早期に解決すべき課題といえるでしょう。

刈屋 大輔 (かりや だいすけ)

青山学院大学大学院経営学研究所博士前期課程修了。物流専門紙「輸送経済」記者、「月刊ロジスティクス・ビジネス」編集長などを経て、フリーランスの物流ジャーナリストに。青山ロジスティクス総合研究所代表。著書は「知識ゼロからわかる物流の基本」(ソシム)、「ルボトラックドライバー」(朝日新聞出版)など。近著に「知識ゼロからわかる物流センターの基本」(ソシム)がある。

